

2004.11.01

第一次新潟県中越地震被災地支援活動報告

東京災害ボランティアネットワーク
連合東京 VST 吉村 義樹

<派遣決定に至るまで>

東京災害ボランティアネットワークは10月23(土)新潟県中越地方の地震被害を受けて、急遽24日(日)情報収集作業ともに関係団体と協議しました。その後26日(火)緊急救援活動ボランティアの派遣を決定し、具体的には以下の通り確認し調整作業に入りました。

<現地でのプログラムと確認事項>

炊き出しを中心とした生活支援プログラムを行うこと
新潟県総合生協のご協力により食材3000食を調達すること
宿泊拠点を連合東京と交流のある高柳とすること
活動拠点は東京から入りやすい十日町市付近にすること
東京災害ボランティアネットワークの所属する団体50名規模で派遣をする。などを確認しました

<事前調査>

当初、十日町を拠点と考えていたことから、26日(水)~28日(木)にかけて、A-yan Tokyo 植草、連合東京 VSC 真島・吉村・長谷川が災害ボランティアセンター立ち上げ支援、および活動拠点や宿泊場所との調整など事前調査に入った。

【事前調査での確認事項】

宿泊拠点を高柳町とし、ボランティアの受け入れを最大50名規模までは受け入れることとなった
十日町市での炊き出しはニーズとしてはないわけではないが、圧倒的に不足している雰囲気ではないこと
小千谷と長岡で既に炊き出しを中心に活動を展開しているSVAの支援拠点を週末のみ(2箇所)引き継ぐこととなった(2500食)
ジャパンプラットフォーム経由で、支援の申し出があったタレント藤原紀香さんからのカイロ(3000個)を炊き出し時に配布すること
その他、炊き出しのニーズはかなり多かったので、小千谷市災害ボランティアセンターに今週末入る旨だけ伝えて一旦東京に戻った

< 具体的活動、行程 >

10月29日(金)

- 15:00 池袋駅西口 芸術劇場前集合 参加者 55 名
- 15:15 出発～貸切バス中型・小型バス各 1 台、乗用車(ワゴン車) 5 台
- 15:55 関越道練馬 IC
- 16:50 上里 SA 休憩(15 分)
- 17:55 谷川岳 SA(20 分)
- 18:30 越後湯沢 IC 高速下車一般道へ
- 18:40 GS にて燃料補充(緊急に備えて 10 分間)
- * 小千谷ボランティアセンターより電話連絡、炊き出し依頼があり、先
発の上原東災ボ事務局長が調整した結果、山寺地区に入ることが決定
- 19:00 17 号線 砂押
- 19:45 松代
- 20:15 高柳「こども自然王国」到着
- 20:35 オリエンテーション、作業の説明など
炊き出し食材仕込み作業開始(野菜 肉類)
食材を高柳町役場倉庫へ引き取り
高柳町よりトラック 1 台・テーブル 3 本・包丁まな板セット 10 を借用
- 24:00 作業打ち切り・宿舎にて入浴しリーダー以外は消灯
- 01:00 各グループリーダーミーティング(派遣箇所は 十日町山寺 東小千谷
長岡 栖吉小の 3 カ所に決定) その他コーディネート確認
- 01:30 消灯



早朝より食材の準備に追われる

< 30 日の活動場所の決定 >

長岡市	栖吉小学校	夕食 1000 食	(食材と人員の派遣)
小千谷	東小千谷中学校	昼食 500 食 / 夕食 500 食	(食材と調理人員の派遣)
小千谷	山寺地区	昼食 500 食	(食材と調理人員の派遣)

10月30日(土)

- 05:30 起床
- 06:00 食材仕込み作業再開
- 07:30 朝食
- 08:00 派遣先3カ所分散し器材食材準備作業
- 08:50 2チームは小千谷方面へ
1チームは長岡方面へ
- 東小千谷中学校 15名
小千谷 山寺地区 15名
長岡 栖吉小学校 21名
- 各グループとも昼食はおにぎり2個とペットボトルのお茶を持参
- 20:15 3カ所より各部隊高柳へ帰還
- 20:30 食堂にて夕食(弁当)と意見情報交換
- 21:30 リーダーミーティング(派遣箇所は 東小千谷中 長岡柿小学校へ)
- 22:00 自由消灯

<31日の派遣場所の決定>

東小千谷中学校	昼 500食	25名
長岡柿小学校	昼 500食	25名



町内会を中心に多くの住民が集まった(山寺地区)



温かい汁物は非常に喜ばれました(山寺地区)



昼間は家の片付けをして、夜だけ避難所に戻るという
避難生活を続けている被災者の方には夕食の炊き出しが有効でした
(東小千谷中学校)

10月31日(日)

- 06:00 起床 東小千谷中部隊 食材仕込み行動開始
- 07:15 朝食
- 08:30 資器材詰め込み作業開始
- 09:00 小千谷市東小千谷中チーム 28 名出発
長岡市柿小学校チーム 25 名
- 10:30 活動拠点着 昼食炊き出し作業へ
東小千谷中 昼食 カレーライス・わたあめの提供 500 食
柿小学校 昼食(みそ汁と夕食の保存食作り)
各グループとも昼食はおにぎり 2 個とペットボトルのお茶を持参



保存食のスイートポテトをつくる(柿小学校)



子どもたちだけでなく、大人にも大好評だった「わた飴」。気の休まることない避難所で、元気が出る、楽しめるメニューでした

- 15:00 小千谷 IC に両部隊集合 荷物詰め替え作業 全員最終ミーティング
- 15:30 小千谷 IC 出発
- 15:50 堀之内 PA 休憩(19分)
- 17:30 上坂 SA(20分)
- 19:30 池袋駅西口東京芸術劇場到着

新潟県中越地震災害ボランティア日記

東京災害ボランティアネットワーク

連合東京 VST 柿沢 未途

10/29(金)~31(日)まで、新潟に行ってきました。「東京災害ボランティアネットワーク」の構成団体である「連合東京ボランティアサポートチーム」の一員として、中越地震の被災者のサポートをするためです。

「連合東京ボランティアサポートチーム」は、連合東京に加盟する労働組合の若手などが中心となって、災害発生時の被災地の支援活動などをおこなうグループです。じつは私も今、月1回、その研修を受けています。そんなことから、私のところに「ボランティア募集」のメールが入り、「これは行かなければ」と思って、手をあげた次第です。

土日も地域の行事がいろいろ入っていたのですが、それらはすべてキャンセルしました。しかし、行く前にどうしても片付けなければならない仕事をしているうちに、出発日29日の朝になってしまいました。

そして、今回のボランティア募集に手を上げた50人とともに、バス2台で、新潟に向けて出発です。まあ我ながら強行軍だったと思います。

それからバスで6時間。関越道を湯沢ICで降りて(そこから先は通行止め)さらに通行止めの道路を迂回しながら、宿泊地である高柳町の「子ども自然王国」というキャンプ場みたいなところに入りました。着くなり、翌日以降の炊き出しの準備です。ジャガイモとかダイコンとかゴボウとか、炊き出し用の食材を、洗って、皮をむき、切っていきます。何でもないので、食材の量は3000人分です。膨大な作業です。ちなみに私は包丁を使うのは苦手なので、ずうっとゴボウを洗ってました。到着直後の夜9時から12時過ぎまでその作業をして、残りは翌朝に持ち越しました。

翌30日は朝6時から続きをやって、8時半に被災地に出発しました。私が向かったのは小千谷市です。

小千谷市の山寺地区という集落で炊き出しをすることになっていました。前日は夜だったので見えなかったのですが、朝、出発して、地震の傷痕を目の当たりにすることとなりました。小千谷市に向かう国道291号線は、路肩がいたるところで陥没、崩落していました。斜面も土砂崩落で地肌がむき出しになっていて、痛々しい光景でした。

「通行止め」という立て看板を無視して通り、照明のつかない真っ暗なトンネルを抜けて、小千谷市へ。そこには、さらに悲惨な光景が広がっていました。ぐしゃっと全壊した家屋。傾いた電柱。行きかうカーキ色の自衛隊車両。そして、家の前でテントを出して生

活している人々。テレビで見た、画面そのままの光景が、そこにはありました。

10時30分に小千谷市山寺地区に到着。山寺地区は全壊家屋もなく、集団避難はしていませんが、余震の恐怖もあって、住民の多くが「班」という小集落単位（1班、2班とか）で集まり、共同生活を送っています。

大人数の食事を作るため、大きな釜を使用しました



まず町内会長の石上さんから感謝のご挨拶をいただき、山寺地区の入口近くの駐車場をお借りして、炊き出し開始。

すいとん入りの豚汁を作り始めたら、「自衛隊だか東京の人だかがカレーを作ってくれる」という話が出て、みんなものすごく期待している」という話が出て、急遽、カレーも作ることに。豚汁500人分、カレー150皿分を作りました。

お昼前には暖かい食事を待つ住民たちの列ができました。お年寄りから子どもまで、次々と豚汁、カレーを手にとり、「おいしい」と食べ

てくれました。市役所からの配給は、菓子パンとかおにぎりばかりで、こういう暖かい食事は地震発生以来、初めてだったようです。県外から駆けつけたボランティアは私たちが初めてで、「わざわざ東京から来てくれて。本当にありがとう」と、涙するおばさんもいました。

昼過ぎからフリーな時間ができたので、持ち前のジャーナリスト根性を発揮して、近くの現場を見て回りました。近くの東小千谷小学校が避難所となっているという話を聞いたので、そこまで見に行きました。隣の小千谷高校と合わせると、体育館の中に、500人以上の人が避難生活を送っているそうです。さらに校庭には、車で生活している人たちの車が並んでいました。東小千谷小学校の体育館には、集落全体での避難を余儀なくされた小千谷市浦柄地区の住民が生活しています。体育館の前で世間話をしていた主婦の方をつかまえて、少し話を聞きました。

浦柄地区は最も被害の甚大な山古志村や川口町に近い状況のようで、地区を流れる川が崩落した土砂でせき止められて流れが変わり、もともと道路だったところが川みたいになってしまって、それが住宅にも押し寄せてきている、ということでした。

ちょうど前日に1時間くらいだけ家に戻ったそうなのですが、想像を絶するグチャグチャな状態に、「あれはもう家じゃない」と二重のショックを受けた様子でした。

東小千谷小学校は今週の金曜日(5日)には授業再開を予定しています。授業が始まると、こうした人々も仮設住宅のプレハブへの再移転を余儀なくされます。本当に災難続きで

す。この東小千谷小学校には、ちょうど前日、新しく当選したばかりの新潟県知事が視察に訪れ、テントで一夜を過ごしたらしいのですが、来たのが夜 9 時前と遅かったので、「こんな時間に来て」とずいぶん鬱鬱をかってしまったようです。

翌 31 日は東小千谷中学校というところで炊き出しです。ここでは小千谷市内の人が 350 人ほど避難生活を送っていますが、学校の体育館が半壊して使えないため、校庭に設営された赤十字のテントで生活したり、残りは車の中で生活しています。ただ、車内生活者の「エコノミークラス症候群」による死亡が立て続けに発生したため、車での生活を解消しようと、ちょうどその日から自衛隊が野営用のテントを設置したところでした。

ここでも「ぜびカレーを」という要望があり、ばかでかい釜で 500 人分のカレーを作りました。ちなみに自治労から学校給食の調理師の女性の方々が同行されていたので、仕込みから調理にいたるまで、大人数分の炊き出しのさばきは見事でした。

あと、なぜか長野県松本市から「綿あめ製造機」が来ていて、時ならぬ縁日風に、綿あめも作りました。子どもだけでなく、大人の女性にも、けっこう喜ばれていました。どうもこういう「心のケア」の面が重要なようです。

ここは 40 歳代くらいのお母さんたちが、すごく元気で明るくて、それがとても印象に残りました。最後に帰るときは、皆さんで見送りに来て、手を振ってくれて、とてもうれしかったです。



東小千谷中学校では自衛隊が陣を張っていました

これで 3 日間の炊き出しボランティアは終了。午後 3 時くらいに関越道の小千谷 IC から帰路につきました。関越道が早くも一車線だけ復旧しており、緊急車両のみ通行可能になっていました。といっても応急的な舗装なので、地震で歪んだ道はそのまま、波打ってデコボコしていました。そんな道をガッタンガッタンしながら、東京に向かいました。これも、なかなか経験できないことだと思います。

午後 8 時前には池袋に到着し、そこで解散。くたびれましたが、いい経験をしました。

今回の被災地支援ボランティアをしてみて、つくづく思うのは、やはり地域コミュニティの重要性です。山寺地区も避難所の学校も、町内会長を中心とした地域コミュニティがしっかりしており、非常にまとまりがありました。もともと、隣近所の知り合い同士なので、情報伝達や意思決定でコミュニケーションが取りやすいように感じられました。

これは、東京では、なかなか困難なことです。何しろ「隣は何をする人ぞ」の世界ですからね。しかし、そういう地域コミュニティが脆弱なところは、こういう大規模な災害の発生時には、たちどころにカオスの増埒となります。そうならないためにも、私たちが住むこの東京で、リーズナブルな（旧弊でない、ということ）地域コミュニティの再構築を目指していかなければなりません。

「東京災害ボランティアネットワーク」の事務局長であり、「連合東京ボランティアサポートチーム」の創設者である上原康男さんが、炊き出しをやっていた小千谷東中学校のグラウンドで、私に語った言葉が印象的でした。

「被災地支援のボランティアにやりがいを感じるのはいいけれど、それだけで終わってはいけない。ありがとう、ありがとうと感謝されるのに喜んで、どこかでボランティアができないかと災害が起きるたびに被災地を転々とするようでは絶対にいけない。自分の生活している地域で何をやれるか、自分の生活している地域で災害が起きた時にどれだけ役に立てる人間になれるかが重要なんだ。自分の足元に還元できないボランティア体験は意味がない」

<< 第三回緊急対策会議 >>

第一次ボランティア派遣が終了した11月2日、第三回の緊急会議が開かれ、第一次派遣の報告と、今後の活動を協議しました。

ここで、11月5~7日の日程で第二次ボランティア派遣を決定しました。しかし、今回もまた、第一次派遣と同様の理由で、個人ボランティアの派遣は見合わせることになりました。さらに、今回の派遣にかかる活動資金についても協議し、東京都共同募金会、内閣府からの支援金、そして、それ以外に独自で活動資金を集めていくことを確認しました。

第三回緊急対策会議(2004年11月2日)

出席者：東京災害ボランティアネットワーク事務局	：上原 / 福田
東京ボランティア・市民活動センター	：安藤 / 清水
東京 YMCA	：山添
東京都生協連	：生原 / 平井
連合東京 VST	：真島 / 吉村
ふるさとの会	：成清
(社)シャンティ国際ボランティア会	：三部 / 伊藤
三宅島災害・東京ボランティア支援センター	：卜部
東京 RB	：山田
A-yan Tokyo	：植草

<< 三宅島島民のボランティア参加 >>

第二次ボランティア派遣には、島外避難を余儀なくされている三宅島島民の方(3名)も参加することになりました。同じように苦難の生活をされていることもあり、「自分たちにも何かできるはず」「自分たちの活動が小さな励みになれば」との思いからの参加でした。ホームレスの方々の参加と合わせ、厳しい日常にさらされている方々が、被災に遭われた方を支援するという相互の交流の場を持つにいたりました。

<< 第二次新潟県中越地震被災地支援活動 >>

現地での活動報告については、次ページ(P15)からの「第二次新潟県中越地震被災地支援活動報告」をご覧くださいと思います。なお、後半部(P20)には、ボランティア参加者への配布資料を掲載してあります。

第二次新潟県中越地震被災地支援活動報告：P15～19

ボランティア参加者への配布資料「ちゅうえつの風」：P20～23